



## 「守・破・離」の精神と小学生の学びについて

校長 佐野 一機

「守・破・離（しゅ・は・り）」という言葉をご存知でしょうか。元は千利休の言葉で、茶道や武道等の修行のプロセスを表している言葉です。

「守」は、師匠から教わった「型」を徹底的に守る段階です。この段階では師匠から支援をしてもらいながら、まず「真似る」ことから始まります。

やがて支援が必要なくなったら「破」の段階に入ります。この段階では、師匠の教えだけでなく、他の教えも参考にしながら自分の「型」を模索します。いわば改良でしょうか。

そして自分の「型」を見つけ出したら「離」の段階です。もう既存の型にとらわれることなく自在となり、新たな流派が生まれる。そういうプロセスを表しています。

さて、この「守・破・離」という言葉、子供たちの学びに当てはめても、共通する部分が多くあるように思えます。「読む・書く・聞く・話す」という言語活動を例に考えてみます。

「守」・・・先生の読み方を真似して読む。

教科書のお手本を真似して書く。

「私は〇〇さんに賛成です。その理由は・・・」という「話し方の例」にある構文をつかって話す。聞き方のルールにあるように黙って聞く。

「守」の段階は、徹底して「真似る・守る」ことが大事です。この段階を飛ばして「離れて」しまうと、「型破り」なのではなく、ただの「型なし」です。冒頭に紹介した「守破離」の元となった千利休の言葉は「守り尽くして破るとも離るとて、本（もと）を忘るな」です。つまり基礎・基本のない学びは学びにならないのです。

「破」・・・先生の読み方を基本に、自分が良いと思う話しかたを加えてみる。

お手本から少し、自分流に工夫して書いてみる。

話し方・聞き方の基本に沿いながら、言い方・聞き方を少し工夫してみる。

「破」の段階では、基本の型は大切にしながら、自分なりの工夫をしてみます。「応用」という感じです。子供たちを見ていると、ここが苦手な子が多いです。「型通り」はできるが「型破り」ができない。私たちも「型通り」なら「型なし」ではないのでまあいいか・・・となりがちです。日本人的な気質かもしれませんね。でもそれで終わってしまったらただの「真似っ子・前例踏襲」で終わってしまうので、子供たちが「型破り」なことをした時には、それを後押ししてあげなくてはなりません。

「離」・・・良い読み方とは何かを理解し、自分流の読み方ができる。

論説型・文学型の書き方の概念を理解し、自分流の書き方ができる。

聞き方・話し方を場や相手等によって変化させ、自在に操れる。

本来、教育が目指すのはこの「離」の段階です。これができる子供たちを育てなくてははいけません。しかし、この段階に行くつくためには、応用して工夫してみる「離」の段階が必要ですし、そもそも主体的に学ぼうとする「心」がなくては無理です。

こうしてみると「主体的・対話的で深い学び」という概念は、「守・破・離」の精神と非常に関連性が深いのではないかと感じます。まず主体的に学ぶ気持ちがなければ学べません。そして先生（師匠）や友達（同僚）と対話し工夫改善を続け、いずれは「学び方」を習得し、自分で学んでいけるようになること、それを「主体的・対話的で深い学び」は目指しています。このプロセスはまさに「守・破・離」です。我々、教員の指導のあり方について大いなる示唆となりますが、保護者の皆様にも子育てにおいて、是非、参考にしていただければと思います。

## 12月の行事予定

日	曜	主な行事
1	火	学校朝会
2	水	生け花体験(6年)
3	木	
4	金	校内陸上競技大会(6年) 放課後子ども教室
5	土	
6	日	
7	月	クラブ活動⑤
8	火	GTEC英語4技能検定(6年)
9	水	懇談会資料配付
10	木	学年イベント(6年)
11	金	学年イベント(5年)
12	土	青少年作文表彰式発表会
13	日	
14	月	委員会活動③
15	火	たてわり活動③(昼休み)【赤】 放課後子ども教室
16	水	たてわり活動③(昼休み)【白】
17	木	予:たてわり活動③(昼休み)【赤】
18	金	予:たてわり活動③(昼休み)【白】
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	第3回学校運営協議会
23	水	＜最終下校 13:30＞
24	木	給食最終日 ＜最終下校 13:30＞
25	金	2学期終業式 ＜最終下校 11:40＞
26	土	冬季休業日(1月5日まで)
27	日	
28	月	
29	火	【学校閉庁日】(1月3日まで)
30	水	
31	木	

## 1月の主な行事予定

6	水	3学期始業式 ＜最終下校 11:40＞
7	木	給食開始日・通常日課
22	金	お弁当の日

### <広沢ユニオンス 植園監督へお礼の手紙>

これまでも学校便りやS l a c k等で植園監督や広沢ユニオンズにお世話になっていることをお伝えしましたが、今回1年生児童が植園監督へお礼の手紙を書きました。市役所側の樹木の剪定や草刈りをしていただいたお陰で、子供たちが安心して虫とりしたり、植物の観察をしたりすることができています。

植園監督は現在御年73歳で、広沢ユニオンズの監督を37年間務められ、今も情熱的な指導をされています。「広沢小にはP T Aがないからね。」が口癖で、校内外の整備にいつもご尽力いただいております。



作業されている姿を見かけましたら、是非皆さんもお声かけをお願いします。

### <ベルマークの回収について>

11月4日付のお手紙でお知らせしましたが、令和3年1月6日(水)～15日(金)にベルマークの回収をさせていただきます。昨年度までの保護者への作業負担はなく、回収されたベルマークをサポートセンターへお届けする取組です。各ご家庭でのベルマークの収集にご協力をお願いします。

### <心を込めた花で明るい街づくり>

令和2年度和光市協働提案事業として、和光おもてなし隊のご尽力をいただき、栽培委員会の児童がパンジーの植栽を行い、毎日水やりを行っております。

12月下旬には和光市駅前に140台のプランターが並び予定ですので、広沢小の花を探してください。コロナが収束し、東京オリンピックの開催を彩る取組になることを切に願っています。



### <12月の授業参観・懇談会について>

過日お手紙でもお知らせしましたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、保護者に来校いただく形での授業参観・懇談会等はいりません。

2学期当初と同様、懇談会については紙面(12月9日配付予定)での実施とさせていただきますことをご了承ください。